

2020. 6. 14 第二主日礼拝

I コリント 1:10-17 「キリストのために一致する」

## 聖書

10 さて、兄弟たち、私たちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたにお願いします。どうか皆が語ることを一つにして、仲間割れせず、同じ心、同じ考えで一致してください。

11 私の兄弟たち。実は、あなたがたの間に争いがあると、クロエの家の者から知らされました。

12 あなたがたはそれぞれ、「私はパウロにつく」「私はアポロに」「私はケファに」「私はキリストに」と言っているとのことです。

13 キリストが分割されたのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によってバプテスマを受けたのですか。

14 私は神に感謝しています。私はクリスポとガイオのほか、あなたがたのだれにもバプテスマを授けませんでした。

15 ですから、あなたがたが私の名によってバプテスマを受けたとは、だれも言えないのです。

16 もっとも、ステファナの家の人たちにもバプテスマを授けましたが、そのほかにはだれにも授けた覚えはありません。

17 キリストが私を遣わされたのは、バプテスマを授けるためではなく、福音を、ことばの知恵によらずに宣べ伝えるためでした。これはキリストの十字架が空しくならないようにするためです。

## はじめに

先週はコリント教会への挨拶の部分から、教会は神の教会であり、聖なる者であることに目を向けました。神さまによって召された教会ですが、様々な人が集まるゆえに問題も発生します。信仰を持つ前の生き方や価値観が教会生活に影響を及ぼすこともあります。聖なる神の教会ということばだけが

独り歩きして、教会にある問題課題に目をつむってはいけないのです。名実ともに聖なる神の教会となるために問題課題に向き合って進みたいと思いません。

## 1. 教会内の分派

コリント教会の最初の問題は教会内に争いがあったということです。「あなたがたの間に争いがあると、クロエの家の者から知らされました。」(11節)とありますように、コリント教会の者からパウロに教会内の争いについて手紙が届いたのです。教会内の問題を放置せず、相談を持ちかけた器がいたことは感謝です。今風に言えば、内部告発にあたるでしょうが、間違っただけを是正しようとするのは、簡単なようで簡単ではないです。

クロエの家の者から伝えられた内容は、教会内が4つの分派に分かれていて、それが争いの原因となっているということでした。4つの分派とは「パウロ派」「アポロ派」「ケファ（ペテロの別名）派」「キリスト派」です。「パウロ派」はコリント教会の産みの親であるパウロを師と仰ぐ派で、教会誕生の初期の人たちだった可能性が高いです。「アポロ派」はパウロの後コリント伝道を託されたアポロにつく人たちです。アポロは知性と雄弁を兼ね備えた器でしたから、アポロの魅力に惹かれた信者が一派を作っていたようです。「ケファ派」はおそらくユダヤ人クリスチャンであろうと言われています。ケファすなわちペテロがコリント伝道に携わった記録はありませんから、正当なユダヤ主義を掲げた人たちがペテロの名を持ち出して一派を作っていたものと思われます。最後の「キリスト派」は他の3派からは距離を置き、自分たちは直接イエスさまにつくと主張した人たちです。その主張自体は間違っていないですが、結果的には一つのグループを作り、他の3派との違いを主張したようです。

教会内の分派は、今日の教会でも起こり得る問題です。複数の牧師が交代し、ある程度の歴史を持った教会や有力な信徒が複数いる教会などでは、争

いに至ることはなくとも自分が最もお世話になった人につくことはあり得るでしょう。意見の違いから対立が生じることもあり得ます。問題を放置することは後にその結果を刈り取ることとなりますから、間違いに気づいたらそれを正す方向に目を向けて行きましょう。

## 2. 仲間割れを起こしている人たちへ

分派の事実に対してパウロは質問を投げかけることで、分派が空しいことを述べます。「キリストが分割されたのですか。」「パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。」「あなたがたはパウロの名によってバプテスマを受けたのですか。」(13節)と問い、どれもが否という答えを期待しているわけです。

キリストが四分割されたわけではありませんし、パウロが十字架につけられたわけではありません。十字架につけられ贖いを成し遂げてくださったのはキリストですから、見当違いも甚だしいです。パウロが洗礼を受けた者は、「クリスポとガイオ」「ステファナの家の者たち」と限定的でした。それは、洗礼を受けた人と授けられた人が人間的な繋がりに終始しないためのパウロの配慮です。クリスチャンにとり受洗日は、イエス・キリストを救い主として信じたことを公に告白する大切な記念日ですから、“私は〇〇牧師に洗礼を受けてもらった”という、洗礼を受けてもらった牧師のことはずっと記憶に残ります。それが分派の要因にもなり得ることをパウロは自覚していました。

パウロは「バプテスマを授けるためではなく、福音を…宣べ伝えるため」と、自分は何のために奉仕しているのかを意識していました。このことは牧師に意識転換を促す大切なことです。牧師の中に、“私は〇〇人に洗礼を授けた”と数を誇り自負があるなら、奉仕の目的がズレていると言わざるを得ません。洗礼は結果であって目的ではないのです。目的は福音を宣べ伝えることです。

このような論争が教会内でなされるとき、「キリスト教会」の「キリスト」

がそっちのけの状態になっていることがわかります。教会の頭はキリストですから、皆の目がキリストに向かわないといけないのですが、その目が人に向かうとき様々な分派が生まれてしまうのです。お互いの目をキリストに集中させましょう。キリストによってまとまっていく教会であることを願います。

### 3. キリストのために一つに

教会の頭はキリストです。そのキリストの名によってパウロはコリント教会にお願いをしています。「どうか皆が語ることを一つにして、仲間割れせず、同じ心、同じ考えで一致してください。」(10 節) と。

教会が一致することは大切です。それは多様性を認めないという意味ではありません。「同じ心、同じ考え」という面を強調しすぎると、違う考えを排除してしまうこととなりますから要注意です。同じ心とは同じ視点に立って物事を考えるという意味ですから、教会の頭であるキリストのために皆が一致していくことが求められています。互いに分派を作り争うことに力を注ぐのではなく、この世にキリストの十字架の恵みを届けることに力を集中して行けるように祈りましょう。

パウロの意識の中には「キリストの十字架」を空しくさせてはいけないという思いが強く表れています(17 節)。私たちのために死にまで従われたキリストの十字架を脇に置いて、教会内の争いごとに力を注ぐなら教会は世に対して証を立てることはできませんし、福音を広めていくこともできません。残念なことに、実際に教会内の争いごとが裁判沙汰になり、そのために教会活動に大きな支障が生じてしまったケースを見聞きます。このようなケースは、キリストの十字架を空しくさせてしまっている典型でしょう。私たちの教会だけでなく、地上のすべての教会がキリストのために一つになって前進することが必要な時代になっていると感じます。

一教会の中での一致とともにキリスト教界内での一致も大切な要素です。教会の高齢化や無牧化などの問題が顕在化しつつあります。一つの教会で対処できない問題も出て来る中で、教派教団を超えて一つになってキリストのために生きていく時代が来ていると思われれます。共に手を携えて福音の前進のために立ち上がっていったら幸いです。

### まとめ

教会内の分派、争いに目を向けました。今はそのような状況になくとも、教会は罪人の集まりですから、いつそのような問題が起こるとも限りません。しかし私たちは赦された罪人です。互いの間に行き違いが生じたら、愛と赦しを持って違いを乗り越えて行ける者たちです。それを証することが、教会が教会たるゆえんではないでしょうか。問題のない教会など地上に一つもありません。教会に問題がないことを願いますが、それ以上に問題を乗り越えるところにこそ教会の真価が問われているのだと思います。キリストの教会、聖なる教会としてこれからもこの地に立ち続けていきましょう。